



# トイ・プードル

原産国 フランス

ふわふわな毛とキラキラの目で愛嬌たっぷりのプードルは、古くからヨーロッパ各地で鴨の猟犬として活躍してきたので、泳ぎが得意。抜け毛や体臭もあまりないのが特徴です。

平均体重

男の子：2.5kg / 女の子：2.5kg

平均寿命

15.3 歳

年間平均診療費

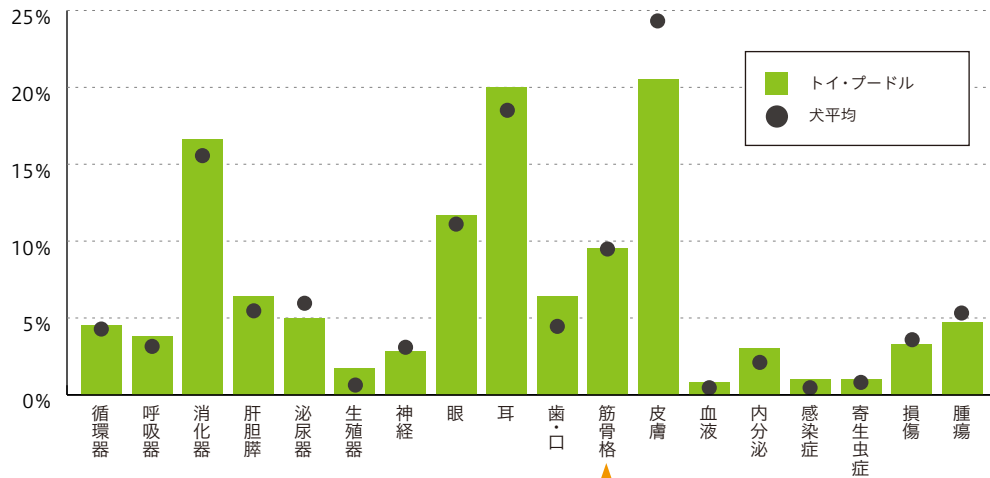
61,476 円

## 性格・特徴

頭がよく忠実で人によく従います。活発で陽気な性格で、遊ぶことが大好きです。興奮しやすい子も多いため、落ち着かせるようなしつけをしてあげるとよいでしょう。社交的で人懐っこい子が多く、人やほかのワンちゃんにも愛嬌をふりまきます。飼い主を喜ばせようとする愛情深い一面もあります。

## 病気の傾向

トイ・プードルに多い病気は、皮膚の病気、耳の病気、消化器の病気の順。また、口が小さいため歯並びが悪く生えてしまうこともあり、歯石がたまりやすいので歯周病にも気をつけましょう。



トイ・プードルで特に気をつけたい病気は **膝蓋骨脱臼**

## 膝蓋骨脱臼とは

膝蓋骨脱臼とは、ワンちゃんの後ろ足にある膝蓋骨（膝のお皿の骨）が外れてしまう病気です。膝の関節やそのまわりの形に異常がある場合や、ケガや事故などによっても起こります。

## 膝蓋骨脱臼の症状・特徴

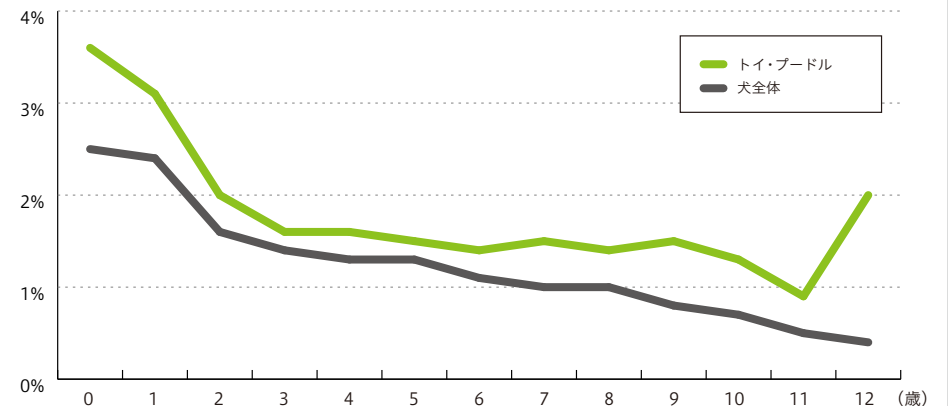
症状がまったくみられない場合から、膝が痛いので歩き方がおかしい場合、さらには歩くことができない場合までさまざまです。軽度であれば激しい運動を控える、痛み止めを飲むなどして保存療法で管理しますが、重度だと手術が必要になることもあります。

膝蓋骨脱臼の  
年間平均診療費



**52,411 円** (手術あり・なし含む)

## 膝蓋骨脱臼における保険金請求割合の年齢推移



※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期日を迎えた0～12歳までの犬466,548頭を対象に調査したものです。(内トイ・プードル：91,567頭)



# チワワ

原産国 **メキシコ**

アップル・ドームと呼ばれる丸い頭と大きな目が特徴のチワワは、アステカ文明時代から飼われていた「テチチ」という犬種の直系子孫と考えられています。

平均体重

男の子：2.3kg / 女の子：2.3kg

平均寿命

13.7 歳

年間平均診療費

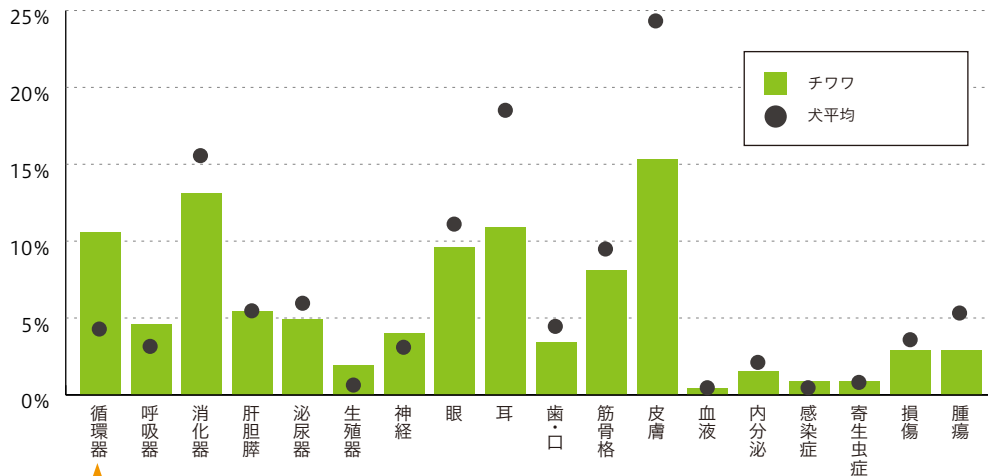
65,290 円

## 性格・特徴

家族に対しては愛情深いですが、見知らぬ人に対しては内気になることもあります。警戒心が強く、小さな体でも自分よりも大きなワンちゃんにも立ち向かおうとするなど、勇敢な面も！  
体が小さくても、とにかく元気。ただし小さいがゆえに、気管や骨なども細くて繊細です。

## 病気の傾向

チワワに多い病気は、**皮膚**の病気、**消化器**の病気、**耳**の病気の順。ただしどれも犬全体の平均と比べると低い割合です。  
平均よりもチワワがかかりやすい病気には、**循環器**の病気のほか、**神経**の病気などもあげられます。



チワワで特に気をつけたい病気は **循環器の病気**

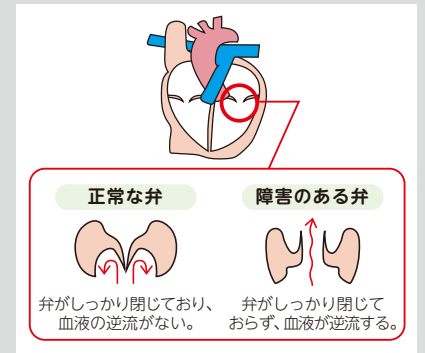
## 循環器とは

心臓や血管、リンパ管などのこと。  
体の中で血液やリンパ液などの体液を運び、循環させる働きをしています。

## 循環器で気をつけたい病気

特に気をつけたいのは、そうぼうべんへいさふぜんしやう僧帽弁閉鎖不全症です。心臓の左心房と左心室の間にある弁がうまく閉じられなくなり、心臓の血液が逆流してしまう病気です。(右図参照)

手術になると非常に高額で、かつ日本で手術ができる施設も限られています。そのため薬で進行を防ぐという治療法が一般的です。  
発症初期段階では症状がないことが多く、診察時は心雑音がないかを確認します。



## 循環器の病気の年間平均診療費

手術あり **1,044,371 円**

手術なし **96,626 円**



## こんな症状が見られたら循環器の病気かも！？

- 疲れやすくなる
- 咳をするようになった
- 呼吸困難になる
- 舌の色が紫色になる(チアノーゼ)

※咳が気になるときは、様子を動画で撮影し、獣医師に見せるのも有効です。

※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期を迎えた0～12歳までの犬466,548頭を対象に調査したものです。(内チワワ：73,526頭)



# ミニチュア・ダックスフンド

原産国 ドイツ

長い胴と短い足。何とも愛らしいこの体型は、小さな穴に潜んでいるアナグマなどの獲物を狩り出すのに最適で、主にヨーロッパで狩猟犬として大活躍してきました。

平均体重

男の子：5kg 以下／女の子：5kg 以下

平均寿命

14.6 歳

年間平均診療費

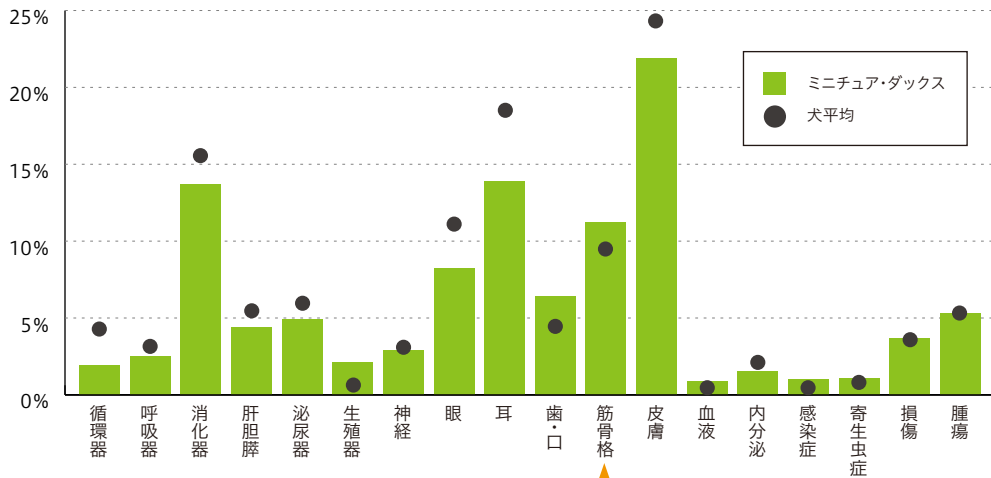
89,120 円

## 性格・特徴

エネルギーに満ちあふれており、賢く誠実な伴侶犬として人気です。好奇心旺盛で活動的なので、お散歩をしたり、一緒に遊ぶことが大好きです。楽しみながらたくさんコミュニケーションをとりましょう。フレンドリーな子が多いため、他のどうぶつとの相性もいいといわれています。甘え上手で、家族に献身的な姿に癒されます。

## 病気の傾向

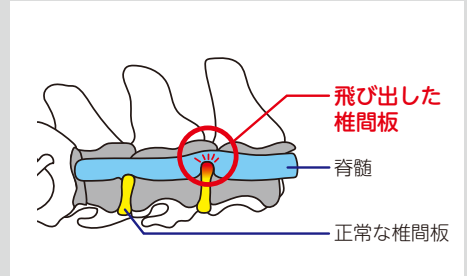
ミニチュア・ダックスフンドに多い病気は、**皮膚**の病気、**消化器**の病気、**耳**の病気の順。また、胴長であるがゆえに腰や股関節などへの負担が大きいので、ジャンプ、高所や階段の上り下り、肥満や抱き方には注意が必要です。



ミニチュア・ダックスフンドで気をつけたい病気は **椎間板ヘルニア**

## 椎間板ヘルニアとは

ヘルニアとは、体を構成する部位が本来あるべき場所から飛び出してしまう状態のことです。椎間板ヘルニアでは、背骨を構成する椎間板が本来の位置から飛び出してしまう、背骨の中を通る神経である脊髄が圧迫・障害されてしまいます。その結果、さまざまな症状をひきおこす病気です。



## 椎間板ヘルニアの症状・特徴

ヘルニアの程度や部位によって症状はさまざまですが、重症になると歩けなくなったり、排尿・排便が困難になることもあります。椎間板ヘルニアは2～3歳くらいから歳をとるにつれ増えてきます。また、肥満によってもリスクが高まります。

椎間板ヘルニアの年間平均診療費 **¥ 69,570 円** (手術あり・なし含む)

- こんな症状が見られたら椎間板ヘルニアかも！？
- ソファや階段の上り下りを嫌がる
  - 抱き上げると「キャン」と鳴き痛がる
  - 背中を丸めてじっとしている
  - 後脚のふらつき、麻痺や運動失調、歩行困難
  - 排尿・排便障害

※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期を迎えた0～12歳までの犬466,548頭を対象に調査したものです。(内ミニチュア・ダックスフンド：61,152頭)



# 柴

原産国 日本

一時は絶滅しかけた、国の天然記念物でもある柴犬。最近では海外でも人気がありますよね。その歴史は古く、縄文時代から人間と暮らし、狩猟を行ってきたと考えられています。

平均体重

男の子：9.0kg / 女の子：8.0kg

平均寿命

14.5 歳

年間平均診療費

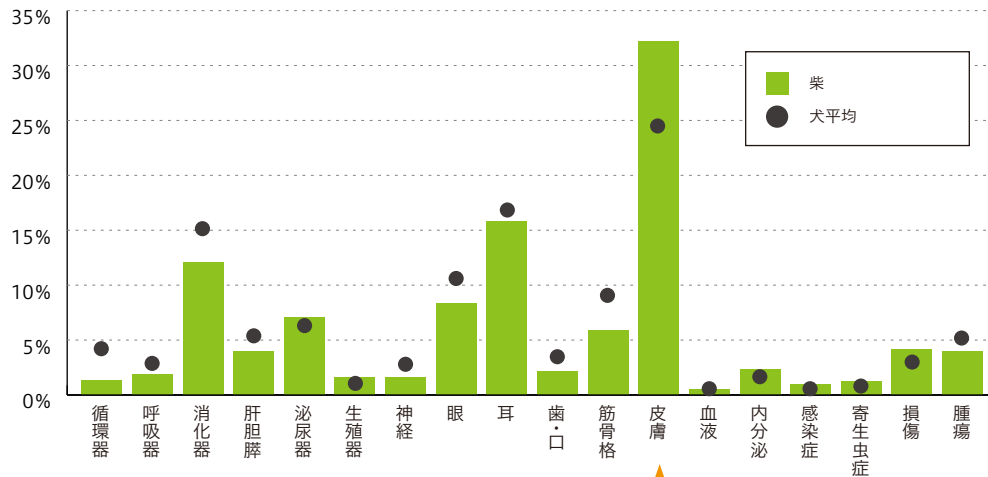
76,193 円

## 性格・特徴

勇敢で大胆、我慢強く、感覚が鋭敏で警戒心が強いです。それゆえ主人には忠実ですが、見知らぬ人や物が苦手な子も少なくありません。少し神経質な面もありますが、聡明で賢い性格もあわせ持つためしつけはしやすいといわれています。しつけを通じて信頼関係を築くことで、愛嬌たっぷりの愛情表現をしてくれるのも魅力です。

## 病気の傾向

柴に多い病気は、**皮膚**の病気、**耳**の病気、**消化器**の病気の順。被毛はダブルコートのため、換毛期は大量に抜け毛が発生します。皮膚病の予防のためにも定期的にしっかりとブラッシングをしてあげましょう。



柴で特に気をつけたい病気は **皮膚の病気**

## 皮膚炎とは

花粉やホコリなどのアレルゲンが原因となるアレルギー性皮膚炎や、皮脂の過剰分泌による脂漏性皮膚炎を起こすこともあります。細菌性の場合には内服薬やシャンプーが有効ですが、アレルギー性皮膚炎や脂漏性皮膚炎は根治が難しく、食事療法や内服薬、シャンプーなどで症状を抑えながら付きあっていかななくてはなりません。

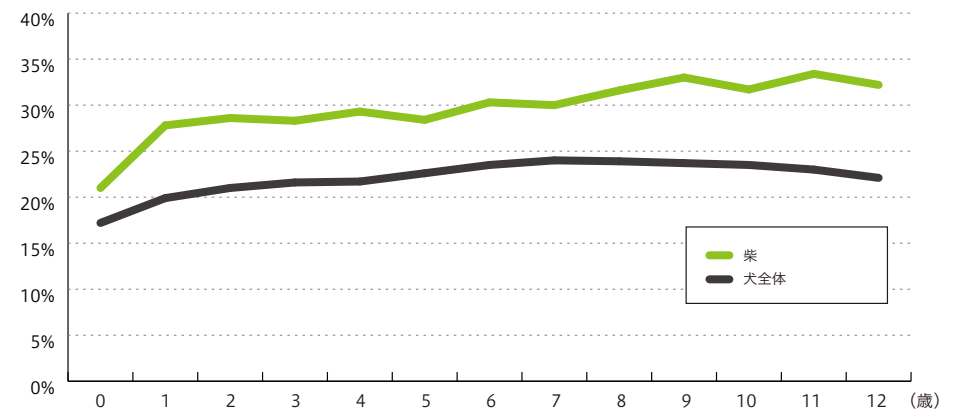
柴犬は抜け毛が多い犬種ですが、皮膚炎が原因で脱毛していることもあります。定期的なブラッシングを行い、見逃さないようにしましょう。

皮膚の病気の  
年間平均診療費



**35,842 円** (0 ~ 12 歳平均)

## 皮膚の病気における保険金請求割合の年齢推移



※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期日を迎えた0～12歳までの犬466,548頭を対象に調査したものです。(内柴犬：26,023頭)



# ポメラニアン

原産国 ドイツ

コロコロと動く姿が愛らしいポメラニアンは、サモエドが祖先といわれており、ヨーロッパで小型化されてきました。ビクトリア女王やモーツァルト、ナポレオンなど愛好家も多かったようです。

平均体重

男の子：2.2kg / 女の子：1.9kg

平均寿命

13.6 歳

年間平均診療費

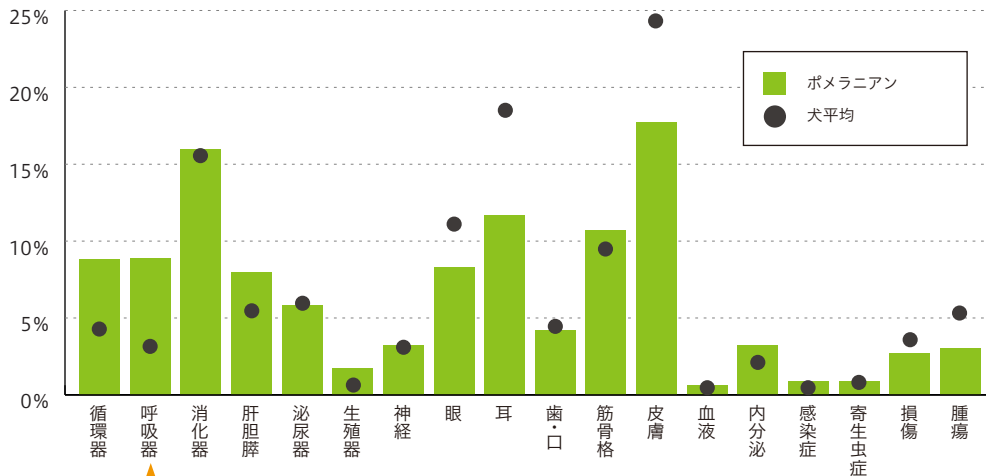
80,294 円

## 性格・特徴

活発で動きが素早く、飼い主に忠実でお利口なワンちゃんです。その反面、常に注意深く、もとは大型犬であったため自分よりも体の大きな犬にも立ち向かおうとする勇ましさもあわせ持ちます。自立心にも富んでいるのでお留守番も得意。協調性があるので多頭飼育にも向いているワンちゃんです。

## 病気の傾向

ポメラニアンに多い病気は、**皮膚**の病気、**消化器**の病気、**筋骨格系**の病気の順。活発なので毎日の散歩は欠かせませんが、骨が細く骨折しやすいので、あまり過激な遊びはしないよう注意が必要です。



ポメラニアンで特に気をつけたい病気は **呼吸器の病気**

## 呼吸器で特に気をつけたい病気

特に気をつけたい病気は、**気管虚脱**です。鼻や口と肺を繋ぐ空気の通り道である気管がつぶれることで、咳や呼吸困難を起こします。気管の筋肉が硬化してくる中高年期や、呼吸器に負担がかかりやすい夏場に発症しやすくなります。遺伝、または肥満（脂肪が気管を圧迫するため）、心臓病や慢性気管支炎などによって咳や過呼吸が原因となることもあります。

## 予防方法は？

一度気管がつぶれてしまうと、元には戻りません。肥満にならないよう適性体重を維持する、過度に興奮させないようにする、激しい運動は咳が出やすいので避けるなど、子犬の頃からできることで予防しましょう。

呼吸器の病気の  
年間平均診療費

**36,356 円** (0～12歳平均)

0歳平均 **17,842 円** 5歳平均 **36,174 円** 12歳平均 **62,944 円**



こんな症状が見られたら呼吸器の病気かも！？

- 「ガーガー」というアヒルのような喉鳴りがする
- 咳をするようになった
- 呼吸困難になる
- 舌の色が紫色になる(チアノーゼ)

※咳が気になるときは、様子を動画で撮影し、獣医師に見せるのも有効です。



# ミニチュア・シュナウザー

原産国 ドイツ

シュナウザーとはドイツ語で「小さいヒゲ」。19世紀くらいからネズミ捕りとして活躍してきました。特徴的なまゆ毛や口ヒゲはネズミの攻撃から身を守るために伸びたものなのです！

平均体重

男の子：5.8kg / 女の子：5.8kg

平均寿命

13.2 歳

年間平均診療費

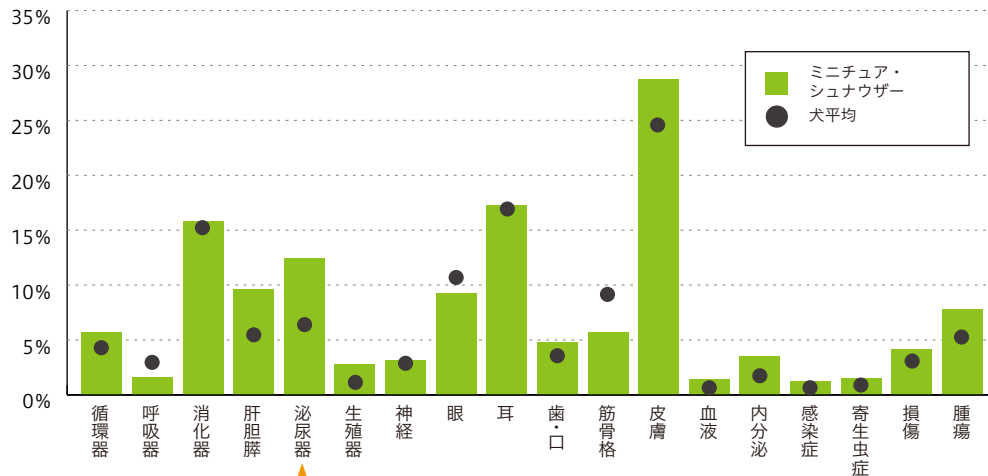
95,787 円

## 性格・特徴

遊び好きで好奇心が強く、警戒心がありながらも勇敢で、愛情深いといわれています。頑固な一面も持っていますが、聡明で従順です。子供との相性もよく、家庭で飼育しやすいワンちゃんです。とても好奇心旺盛なので、短時間でも毎日遊んであげる時間を作ってくださいね。

## 病気の傾向

ミニチュア・シュナウザーに多い病気は、**皮膚**の病気、**耳**の病気、**消化器**の病気の順。活発なので毎日の散歩は欠かせませんが、骨折などしないよう、あまり過激な遊びはしないよう注意が必要です。



ミニチュア・シュナウザーで特に気をつけたい病気は **泌尿器の病気**

## 泌尿器の病気で特に気をつけたい病気

特に気をつけたいのは尿石症です。

## 尿石症の症状・特徴

泌尿器に結石ができる病気で、膀胱、尿道、腎臓に結石ができ、痛みが生じます。結石で尿道を塞がれると尿が出なくなることもあります。男の子に多く、細菌の感染のほか、水分摂取量が少なかったり、おしっこを我慢することでおしっこが濃縮され、結石ができやすいと考えられます。

結石になる前であれば、食事療法での治療が可能ですが、大きな結石となった場合は手術で取除く必要があります。十分な水分摂取とおしっこを我慢させないことが重要な予防となります。また、泌尿器の病気は冬に悪化しやすいので注意が必要です。

尿石症の  
年間平均診療費

¥ **29,687 円** (手術あり・なし含む)

## こんな症状が見られたら泌尿器の病気かも！？

- 頻繁に少量のおしっこをする
- おしっこに血が混ざっている
- 元気・食欲がない
- おしっこする時に背中を丸めている



# ヨークシャー・テリア

原産国 イギリス

幼い頃の体毛はブラック・タンですが、成長するにつれスチールブルーやゴールド、シルバーなど毛色が7回ほど変化すること、その美しい絹のような毛質から「動く宝石」とわれています。

平均体重

男の子：2.3kg / 女の子：2.3kg

平均寿命

13.6 歳

年間平均診療費

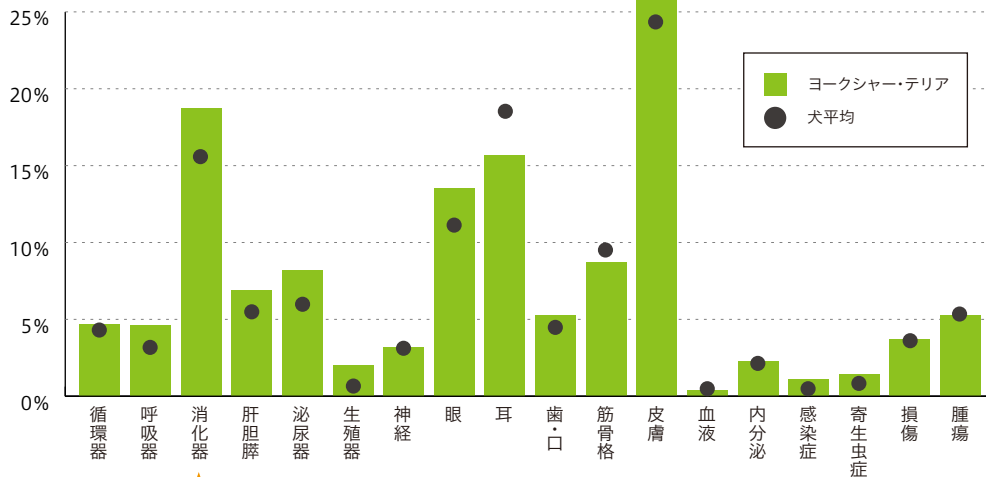
87,108 円

## 性格・特徴

賢く勇敢な性格です。気品あふれる性格でもある一方で、頑固な一面を見ることがあります。小柄な割に活発なので、子供のいる家庭でも良い遊び相手になるでしょう。甘えん坊ながら負けん気の強い気質のため、上下関係や信頼関係をうまく築き、きちんとしつけをすることが大切です。

## 病気の傾向

ヨークシャー・テリアに多い病気は、**皮膚の病気**、**消化器の病気**、**耳の病気**の順。シングルコートで暑さにも寒さにも弱いため、室内の温度管理はしっかりと行いましょう。



ヨークシャー・テリアで特に気をつけたい病気は **消化器の病気**

## 消化器で気をつけたい病気

特に気をつけたいのは門脈体循環シャント（門脈シャント）です。

## 門脈シャントの特徴・症状

腸で吸収した栄養分や毒素などは、門脈から肝臓へ運ばれます。この門脈と全身の静脈の間に余分な血管（シャント）が存在する病気が門脈シャントです。門脈シャントがあると、肝臓へ十分な栄養が行き渡らず、成長不良や肝臓そのものの発育不良が起こります。また、肝臓を通らなかった血液は肝臓で解毒されないため、食後の痙攣発作などの症状が見られます。門脈シャントには手術が必要ですが、完治させることは難しく、血管の残り方によっては、その後食事療法を続けなくてはならない場合もあります。

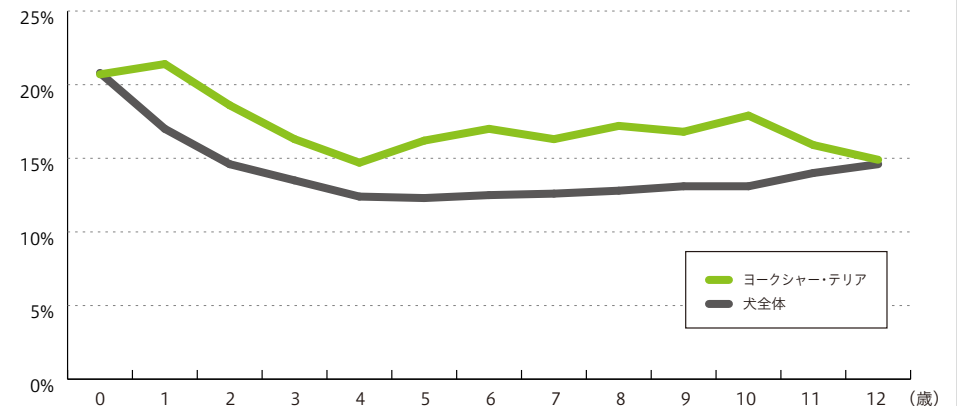
消化器の  
年間平均診療費



**30,088 円** (0～12 歳平均)

0 歳平均 **20,238 円** 5 歳平均 **25,577 円** 12 歳平均 **40,438 円**

## 消化器疾患における保険金請求割合の年齢推移



※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期を迎えた0～12歳までの犬466,548頭を対象に調査したものです。(内ヨークシャー・テリア：14,806頭)



# シー・ズー

原産国 チベット

中国の宮廷やイギリス王室で寵愛されていました。お尻をふりながら歩く姿がマリリンモンローに例えられるほど、とてもチャーミングで愛らしい犬種です。

平均体重

男の子：5.9kg / 女の子：5.9kg

平均寿命

13.6 歳

年間平均診療費

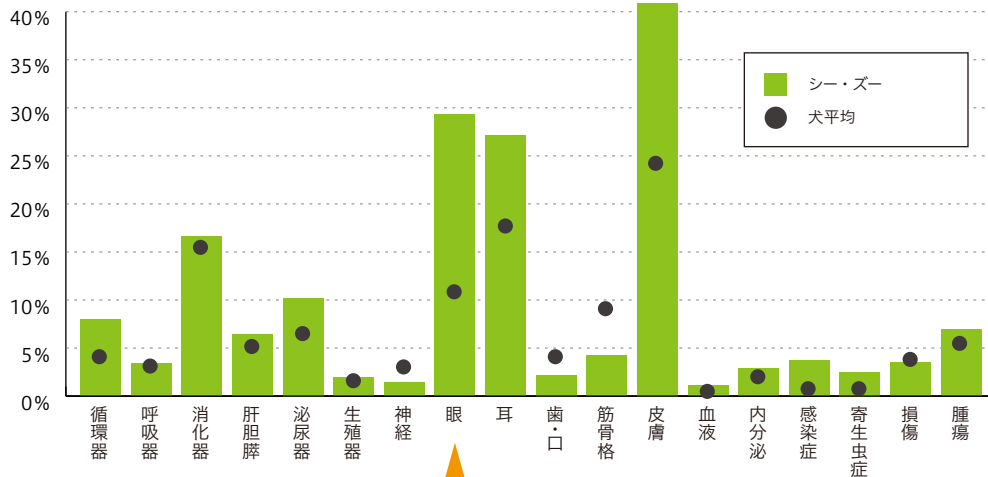
120,018 円

## 性格・特徴

勇敢で活発な性質と、穏やかで静かな性質とをあわせ持っています。少々頑固なところもありますが、理解力があるのでしつけは難しくありません。友好的で愛情深く、子供との接し方も上手なので、よき家族の一員になることでしょう。

## 病気の傾向

シー・ズーに多い病気は、**皮膚**の病気、**眼**の病気、**耳**の病気の順。鼻が短いがゆえ呼吸がしづらく、暑さに弱いので、激しい運動や熱中症には気をつけましょう。また、食べることが大好きなので肥満にも注意が必要です。



シー・ズーで特に気をつけたい病気は **眼の病気**

## 眼で気をつけたい病気

特に気をつけたいのは乾性角結膜炎（ドライアイ）です。

## ドライアイの特徴・症状

涙液を分泌している涙腺などに異常がおきると涙の分泌量が減り、表面が乾いて角膜と結膜に炎症が生じます。シー・ズーは眼が大きく、涙腺に異常がなくても涙の蒸発が早いのでドライアイになりやすい犬種です。

乾燥がひどいと傷や角膜潰瘍になってしまい、強い痛みが生じます。そうになると、まぶたの開きが小さくなったり、しょぼしょぼさせたりする様子が見られます。乾燥を防ぐためには、軟膏や点眼薬を用います。

一度ドライアイになると完治するのは難しいので、普段から観察し、早期発見することが重要です。

眼の病気の  
年間平均診療費



**29,116 円** (0 ~ 12 歳平均)



こんな症状が見られたらドライアイかも！？

- まばたきが多い
- 目が赤い
- 目やにが多い
- 目をしょぼしょぼさせている
- 暗いところでもまぶしそうにする
- 歩くときによく物にぶつかる





# マルチーズ

**原産国** 地中海沿岸地域 (マルタ島)

純白な毛色と絹糸のような被毛が特徴的なマルチーズは、紀元前1500年頃、マルタ島に持ち込まれた犬が起源とされており、世界最古の愛玩犬と呼ばれています。

**平均体重**

男の子：2.5kg / 女の子：2.5kg

**平均寿命**

13.1 歳

**年間平均診療費**

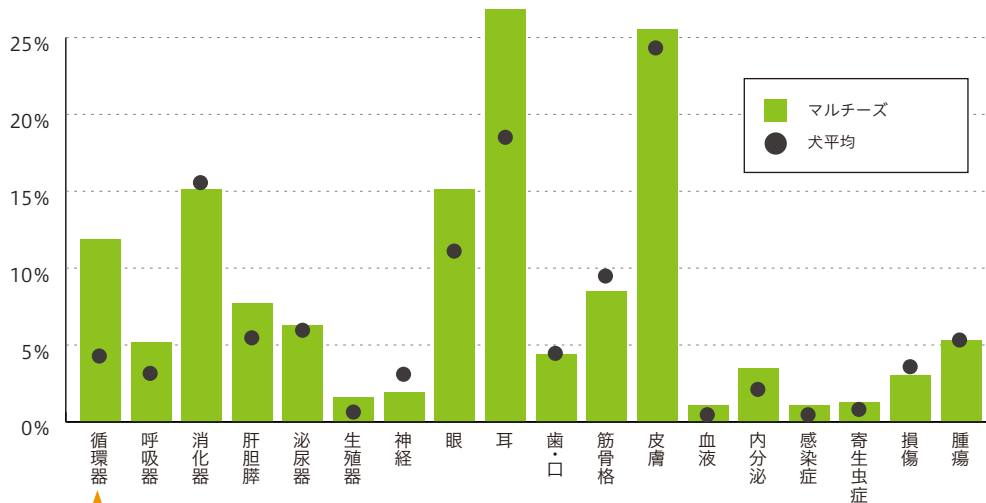
88,339 円

## 性格・特徴

元気で活動的、かつ明るく従順な性格の持ち主で、室内で飼育するのに非常に適したワンちゃんです。  
見知らぬ人に対しては警戒心が強いところもあります。その昔は上流階級の貴婦人の間で「抱き犬」として人気があったこともあり、飼い主に対してはべったり甘えるタイプです。

## 病気の傾向

マルチーズに多い病気は、**耳**の病気、**皮膚**の病気、**消化器**の病気の順。目の周辺は涙やけを起こして被毛が変色してしまうことがあるので、目やになどはこまめにふき取ってあげましょう。また、骨折などにも注意が必要です。



マルチーズで特に気をつけたい病気は **循環器の病気**

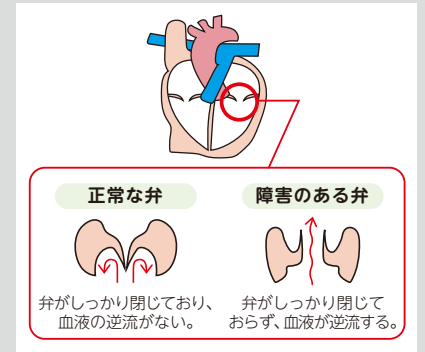
## 循環器とは

心臓や血管、リンパ管などのこと。体の中で血液やリンパ液などの体液を運び、循環させる働きをしています。

## 循環器で気をつけたい病気

特に気をつけたいのは、そうぼうべんへいさふぜんしやう僧帽弁閉鎖不全症です。心臓の左心房と左心室の間にある弁がうまく閉じられなくなり、心臓の血液が逆流してしまう病気です。(右図参照)

手術になると非常に高額で、かつ日本で手術ができる施設も限られています。そのため薬で進行を防ぐという治療法が一般的です。発症初期段階では症状がないことが多く、診察時は心雑音がないかを確認します。



## 循環器の病気の年間平均診療費

手術あり **1,044,371 円**

手術なし **96,626 円**

## こんな症状が見られたら循環器の病気かも！？

- 疲れやすくなる
- 咳をするようになった
- 呼吸困難になる
- 舌の色が紫色になる (チアノーゼ)

※咳が気になるときは、様子を動画で撮影し、獣医師に見せるのも有効です。

※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期を迎えた0～12歳までの犬466,548頭を対象に調査したものです。(内マルチーズ：7,571頭)



# フレンチ・ブルドッグ

原産国 フランス

プヒプヒ鼻を鳴らしながら、つぶらな瞳でいつもニコリ笑顔、大きなお口と大きなお耳・・・その愛嬌たっぷりの風貌から 19 世紀頃、上流階級の人々に広まり、人気を集めるようになりました。

平均体重

男の子：11.5kg / 女の子：10.5kg

平均寿命

11.5 歳

年間平均診療費

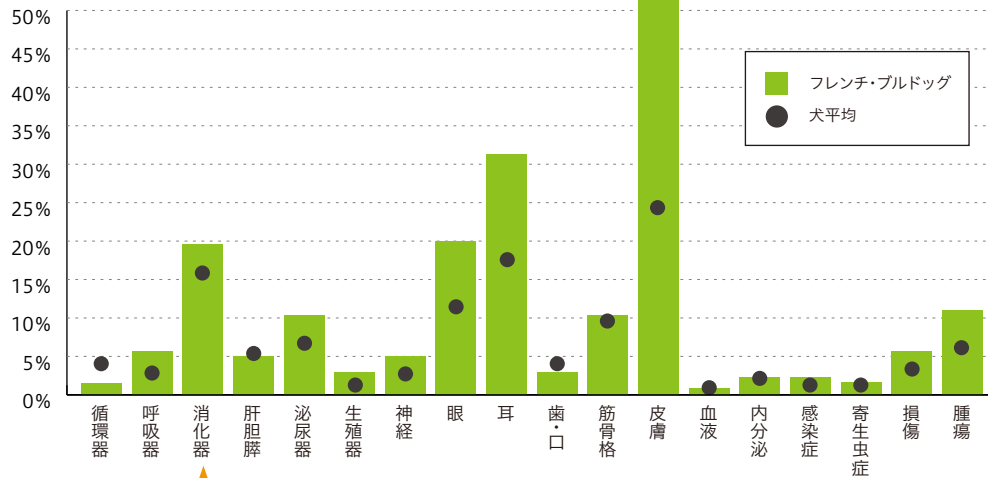
122,068 円

## 性格・特徴

とっても陽気な性格で活発、お利口なワンちゃんです。勇敢で用心深く、好奇心旺盛。人が大好きで人なつこく、家族に甘えることも上手です。表情豊かな明るいフレブルちゃんとの生活は、笑顔あふれること間違いなしです。体は筋肉質で顎も強いので、しつけはとても大切です。

## 病気の傾向

フレンチ・ブルドッグに多い病気は、皮膚の病気、耳の病気、消化器の病気の順。また、鼻が短いがゆえ呼吸がしづらく、暑さに弱いので、激しい運動や熱中症には気をつけましょう。



フレンチ・ブルドッグで特に気をつけたいのは **異物誤飲**

## 異物誤飲とは

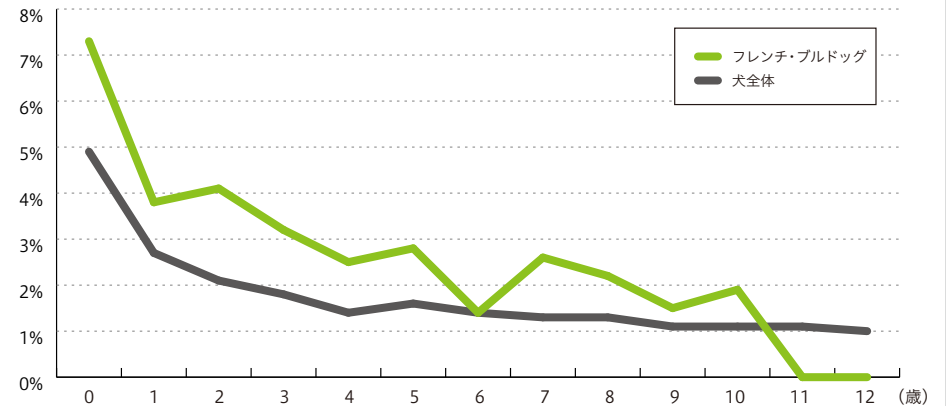
本来、食べるべきものではない「もの」を飲み込んでしまうことです。性格的にも好奇心旺盛なフレンチ・ブルドッグ、しかも幼児期となれば何でも口に入れてしまい、そのまま飲み込んでしまう場合があるため注意が必要です。

例えば、焼き鳥の串や人間のお薬、おもちゃ、タオル、紐など、人間の身近にあるものを飲み込んでしまう場合があります。最悪の場合、消化管に詰まらせて死亡してしまうこともあります。ワンちゃんの届くところに置かない、遊ぶ時は観察する、整理整頓するなど、誤飲をさせない環境作りをしましょう。

異物誤飲の  
年間平均診療費

¥ **32,760 円** (手術あり・なし含む)

## 異物誤飲における保険金請求割合の年齢推移



※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期を迎えた0～12歳までの犬466,548頭を対象に調査したものです。(内フレンチ・ブルドッグ：91,567頭)



# ゴールデン・レトリバー

原産国 イギリス

レトリバーには「獲物を回収する」という意味があり、19世紀頃は鳥猟で撃ち落とした獲物を回収する鳥猟犬として活躍してきました。おとなしく利口で、盲導犬などでも能力を発揮しています。

平均体重

男の子：33.0kg / 女の子：30.0kg

平均寿命

11.1 歳

年間平均診療費

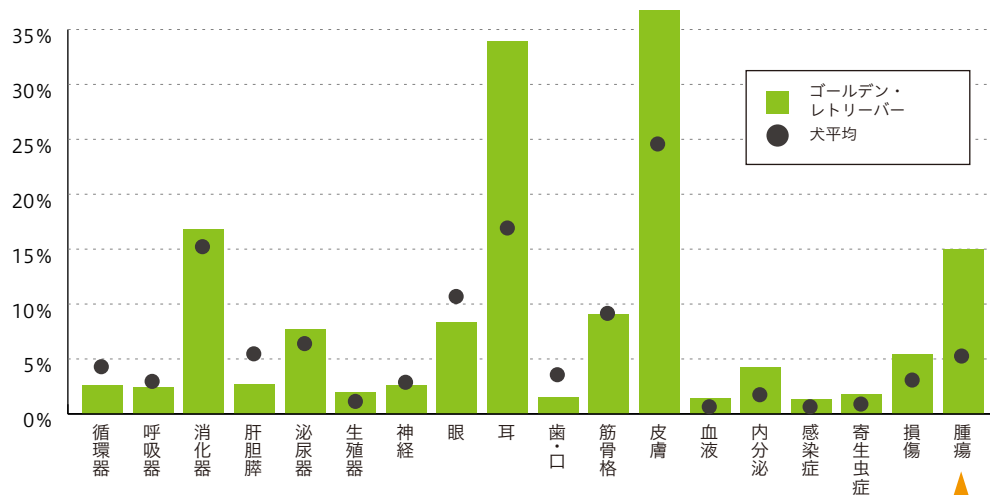
116,283 円

## 性格・特徴

やさしく愛情豊かで洞察力があり、責任感が強く、とても従順なワンちゃんです。社交的な性格で、人にもワンちゃんにもフレンドリーなので子供の遊び相手としても理想的です。学習能力も高いことから、しつけを教えるのも難しくありません。活発なので日常から十分なお散歩が大切です。

## 病気の傾向

ゴールデン・レトリバーに多い病気は、皮膚の病気、耳の病気、消化器の病気の順。食欲と好奇心から、おもちゃを飲み込んでしまうなど、誤飲にも注意が必要です。



ゴールデン・レトリバーで特に気をつけたい病気は **腫瘍の病気**

## 腫瘍とは

細胞が異常に増えてしまう病気のことです。からだの表面にできるものから、内臓や骨などにできるものもあります。腫瘍には良性と悪性がありますが、ゴールデン・レトリバーはどちらにもなりやすい犬種です。

腫瘍の年間平均診療費 **¥ 66,524 円** (0～12歳平均)

0歳平均 **20,108 円** 5歳平均 **55,966 円** 12歳平均 **124,511 円**

## 良性腫瘍

良性腫瘍で多いのは、脂肪腫です。背中やおなかなど、からだの表面にできやすくプヨプヨしたしこりです。

## 悪性腫瘍

細胞の増えるスピードがとても速い腫瘍です。身体の表面にできる悪性腫瘍は、グジュグジュと膿みやすいのも特徴です。肥満細胞腫、骨にできる骨肉腫、血液の腫瘍であるリンパ腫などがあります。

**腫瘍は何よりも早期発見が大切です。**  
日頃からスキンシップをとりながら異常がないか確認しましょう。

- 手でからだの隅々まで触ってしこりがないか確認。特にリンパ節のあるわきの下や足の付け根、女の子の場合は乳腺部分にしこりがないか、など。
- 食欲はあるのに急に痩せてきた、なんとなく元気がない、などもサインのひとつです。

※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期を迎えた0～12歳までの犬466,548頭を対象に調査したものです。(内ゴールデン・レトリバー：6,982頭)



# キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル

原産国 **イギリス**

社交的な性格と見た目の良さから「騎士」という意味のキャバリアと名付けられました。キラキラした大きな目と垂れ耳、被毛が特徴的で、足・胸・尾に生えている飾り毛は、知的で優雅な印象を与えます。

平均体重

男の子：6.7kg / 女の子：6.0kg

平均寿命

12.1 歳

年間平均診療費

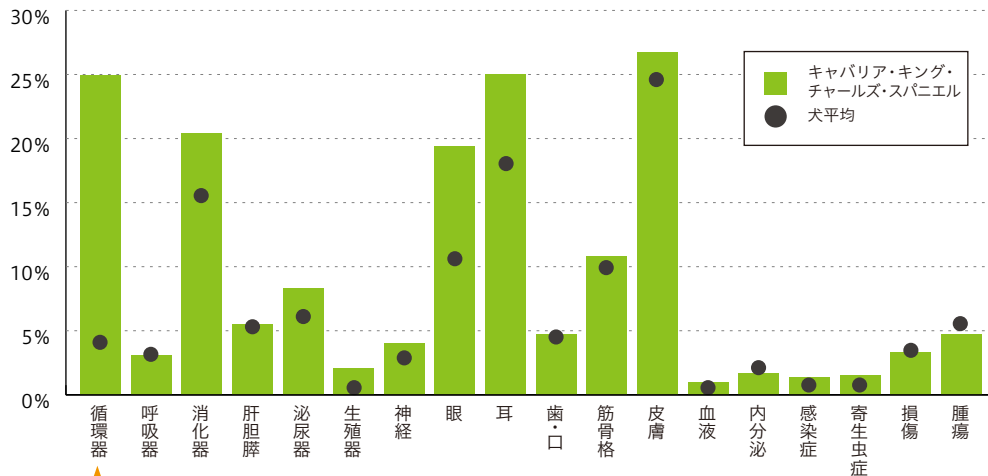
128,376 円

## 性格・特徴

甘えん坊で人なつっこい性格。家族にとっても友好的で愛情深く、子供好きでもあります。また頭もよく、しつけがしやすいのも特徴です。寂しがりやな性格でもあるので、一緒に過ごす時間をたくさん確保してあげましょう。

## 病気の傾向

キャバリア・キング・チャールズ・スパニエルに多い病気は、**皮膚**の病気、**耳**の病気、**循環器**の病気の順。また、食欲旺盛がゆえに太りやすい体質なので肥満には気をつけましょう。



キャバリア・キング・チャールズ・スパニエルで **特に気をつけたい病気は 循環器の病気**

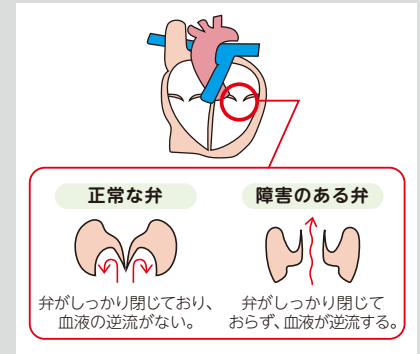
## 循環器とは

心臓や血管、リンパ管などのこと。体の中で血液やリンパ液などの体液を運び、循環させる働きをしています。

## 循環器で気をつけたい病気

特に気をつけたいのは、そうぼうべんへいさふぜんしやう僧帽弁閉鎖不全症です。心臓の左心房と左心室の間にある弁がうまく閉じられなくなり、心臓の血液が逆流してしまう病気です。(右図参照)

手術になると非常に高額で、かつ日本で手術ができる施設も限られています。そのため薬で進行を防ぐという治療法が一般的です。発症初期段階では症状がないことが多く、診察時は心雑音がないかを確認します。



## 循環器の病気の年間平均診療費

手術あり **1,044,371 円**

手術なし **96,626 円**

## こんな症状が見られたら循環器の病気かも！？

- 疲れやすくなる
- 咳をするようになった
- 呼吸困難になる
- 舌の色が紫色になる(チアノーゼ)

※咳が気になるときは、様子を動画で撮影し、獣医師に見せるのも有効です。

※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期を迎えた0～12歳までの犬466,548頭を対象に調査したものです。(内キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル：6,648頭)



# ウェルシュ・コーギー・ペンブローク

原産国 **イギリス**

胴長短足でプリプリとしたお尻がキュートなコーギーは、牧羊犬として活躍してきました。古くから王室や上流階級との関わりが深く、現在もイギリスのロイヤルファミリーに愛されています。

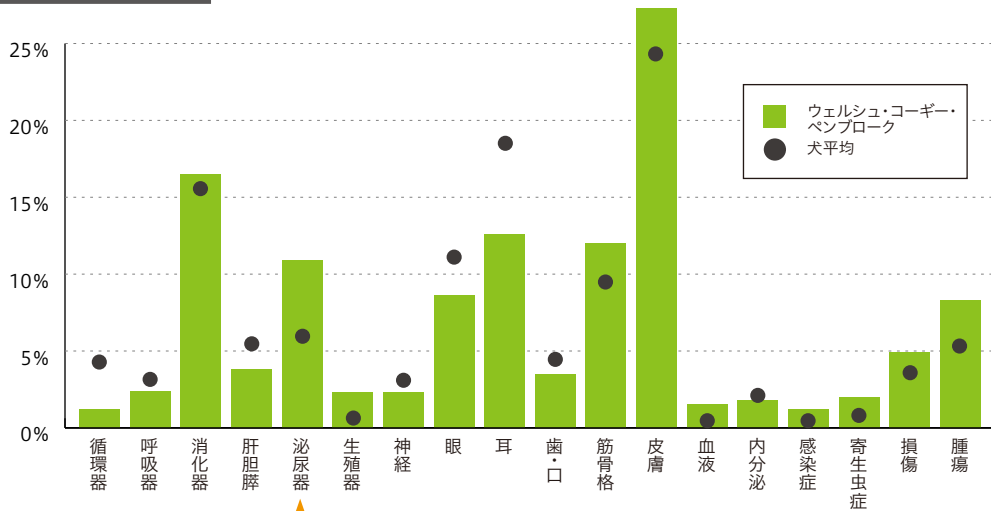
平均体重	男の子：11.0kg / 女の子：10.5kg
平均寿命	12.5 歳
年間平均診療費	110,320 円

## 性格・特徴

とにかく元気がよく、運動が大好き。朗らかで友好的なので、ほかのワンちゃんや初めての人でもすぐ仲良くなれます。もともと牧羊犬だったので、飼い主の命令を理解できる賢さもあり、自立心や自己判断能力に優れています。好奇心も旺盛なので留守中のイタズラには注意しましょう。

## 病気の傾向

ウェルシュ・コーギー・ペンブロークに多い病気は、**皮膚**の病気、**消化器**の病気、**耳**の病気の順。胴長なので、椎間板ヘルニアにも注意が必要です。また、食欲旺盛なので肥満にも気をつけましょう。



ウェルシュ・コーギー・ペンブロークで特に気をつけたい病気は **泌尿器の病気**

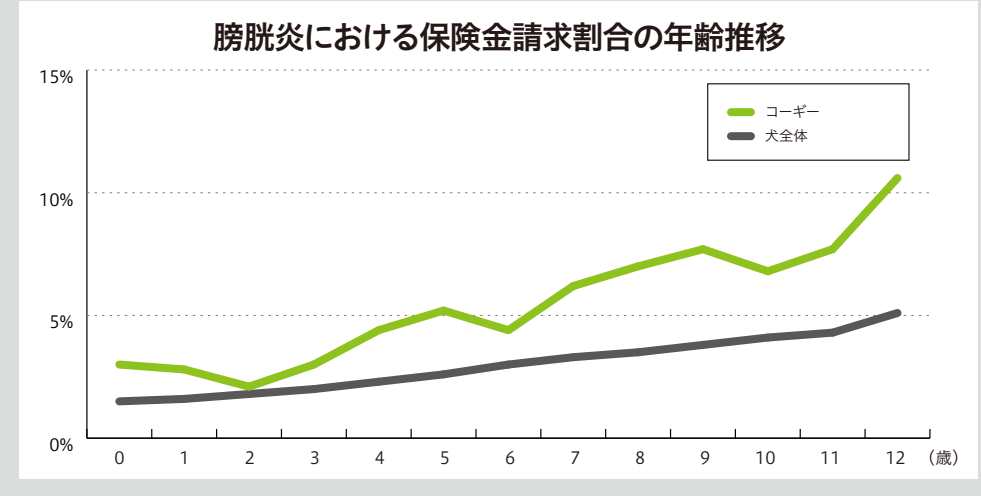
## 泌尿器で気をつけたい病気

特に気をつけたい病気は膀胱炎です。

## 膀胱炎の症状・特徴

膀胱炎は、膀胱の粘膜が炎症を起こす病気で、血尿や残尿感がみられます。原因としては、主に尿道から入った細菌が膀胱に達して炎症を起こします。女の子は尿道が短いことと、おしっこする際に地面と近いので細菌に感染しやすく、男の子よりも膀胱炎になりやすい傾向があります。膀胱炎になった場合、基本的には投薬治療となりますが、膀胱炎が長引いたり再発した場合は結石や腫瘍など、他の疾患の可能性もあります。

膀胱炎の年間平均診療費 **¥ 25,063 円** (手術あり・なし含む)



※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期を迎えた0～12歳までの犬466,548頭を対象に調査したものです。(内ウェルシュ・コーギー・ペンブローク：10,049頭)



# パグ

原産国 中国

中国語で「いびきをかいて眠る王様」を意味する「覇歌(パー・クー)」がその名の由来とされています。しわくちゃで鼻ぺちゃ、真ん丸の目、愛嬌のある表情とひょうきんな性格がとても魅力的です。

平均体重

男の子：7.0kg / 女の子：7.0kg

平均寿命

12.3 歳

年間平均診療費

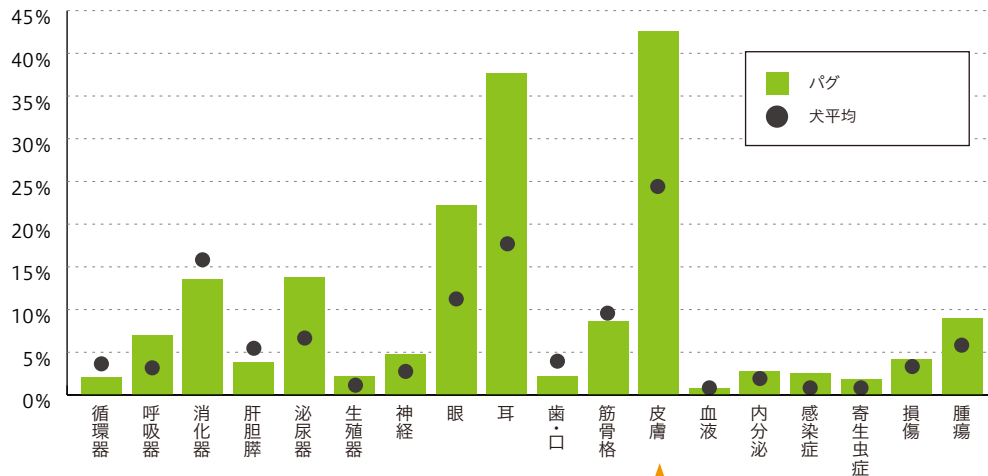
107,241 円

## 性格・特徴

愛情深く遊び好きで、飼い主を喜ばせることが得意。穏やかでのんびりしているので、パートナーとして理想的な犬種のひとつです。頑固でマイペース、嫉妬深い面もあるので、甘やかしすぎないように気をつけましょう。

## 病気の傾向

パグに多い病気は、皮膚の病気、耳の病気、眼の病気の順。鼻が短いがゆえ呼吸しづらく、暑さには弱いので、熱中症には気をつけ、比較的涼しい環境を心がけましょう。食欲も旺盛なので、太らないよう気をつけましょう。



パグで特に気をつけたい病気は **皮膚の病気**

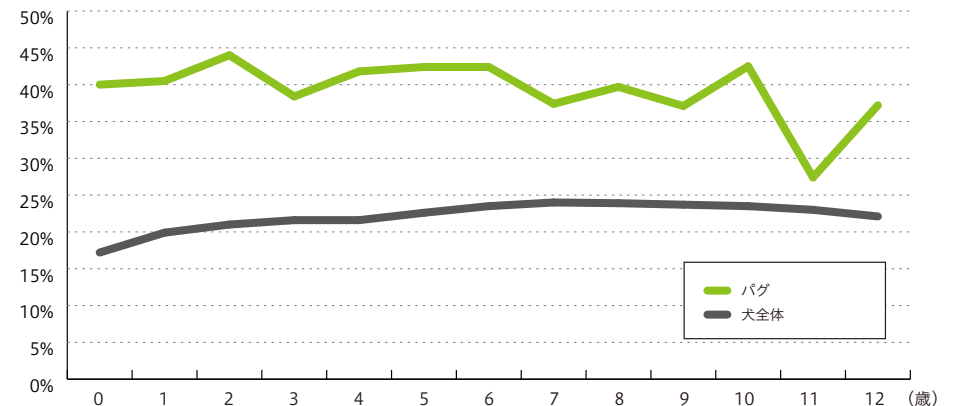
## 皮膚炎について

パグは、そのチャームポイントでもある顔のシワが原因になることがあります。シワの中や皮膚のたるんだ部分で細菌が繁殖することで皮膚炎を起こしてしまうのです。また、アレルギー性皮膚炎や、皮脂の過剰分泌による脂漏性皮膚炎を起こすこともあります。細菌性の場合には内服薬やシャンプーが有効ですが、アレルギー性皮膚炎や脂漏性皮膚炎は根治が難しく、食事療法や内服薬、シャンプーなどで症状を抑えながら付きあっていくなくてはなりません。皮膚炎には清潔を保つことが重要です。定期的なブラッシングや、シワの中や皮膚のたるんだ部分をこまめに拭いてあげましょう。

皮膚の病気の  
年間平均診療費

¥ **35,842 円** (0～12歳平均)

## 皮膚の病気における保険金請求割合の年齢推移



※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期日を迎えた0～12歳までの犬466,548頭を対象に調査したものです。(内パグ：5,296頭)



# パピヨン

原産国 フランス

パピヨンはフランス語で「蝶」のことで、その名のとおり耳が特徴的。16世紀くらいからフランスで寵愛され、王侯貴族を描いた中世の絵画には、時々パピヨンもモデルとして登場しています。

平均体重

男の子：4.5kg / 女の子：4.0kg

平均寿命

14.5 歳

年間平均診療費

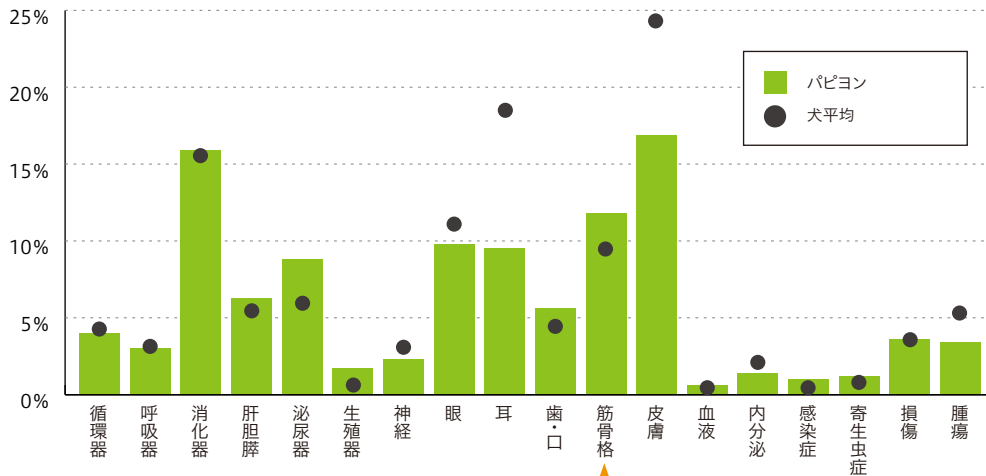
89,823 円

## 性格・特徴

パピヨンはそのエレガントな見た目とは裏腹に、好奇心旺盛で活発な性格、人懐っこいワンちゃんです。他のワンちゃんや動物にもとっても友好的な性格で、多頭飼いにも向いています。また、小さい子供とも上手く共存していける犬種なので安心して飼育できるでしょう。

## 病気の傾向

パピヨンに多い病気は、**皮膚**の病気、**消化器**の病気、**筋骨格系**の病気の順。小柄で華奢な体つきで、特に足が細く長い為、骨折しやすい傾向にあります。活発な性格なので注意しましょう。



パピヨンで特に気をつけたい病気は **膝蓋骨脱臼**

## 膝蓋骨脱臼とは

膝蓋骨脱臼とは、ワンちゃんの後ろ足にある膝蓋骨（膝のお皿の骨）が外れてしまう病気です。膝の関節やそのまわりの形に異常がある場合や、ケガや事故などによっても起こります。

## 膝蓋骨脱臼の症状・特徴

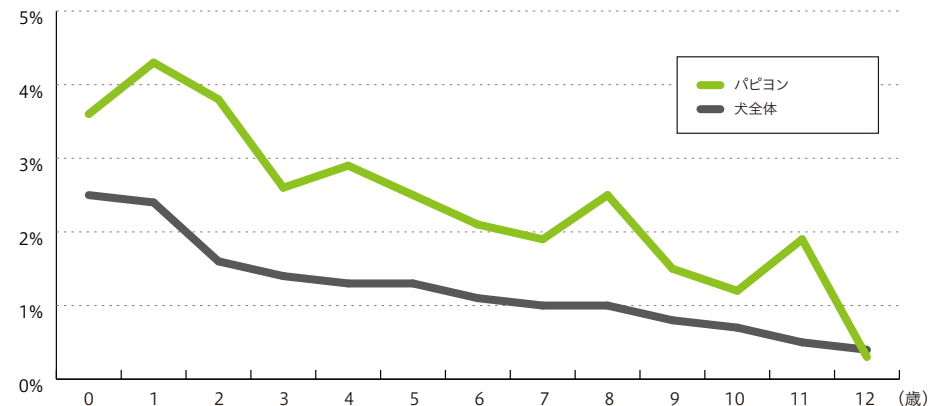
症状がまったくみられない場合から、膝が痛いので歩き方がおかしい場合、さらには歩くことができない場合までさまざまです。軽度であれば激しい運動を控える、痛み止めを飲むなどして保存療法で管理しますが、重度だと手術が必要になることもあります。

膝蓋骨脱臼の  
年間平均診療費



**52,411 円** (手術あり・なし含む)

## 膝蓋骨脱臼における保険金請求割合の年齢推移



※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期を迎えた0～12歳までの犬466,548頭を対象に調査したものです。(内パピヨン：10,383頭)



# ジャック・ラッセル・テリア

原産国 イギリス

19世紀、キツネ狩りの狩猟犬として誕生しました。動くものに敏感に反応し、好奇心旺盛、とにかくやんちゃ。運動能力が高いので、一緒にドッグスポーツを楽しめるのも魅力です。

平均体重

男の子：5.5kg / 女の子：4.5kg

平均寿命

14.4 歳

年間平均診療費

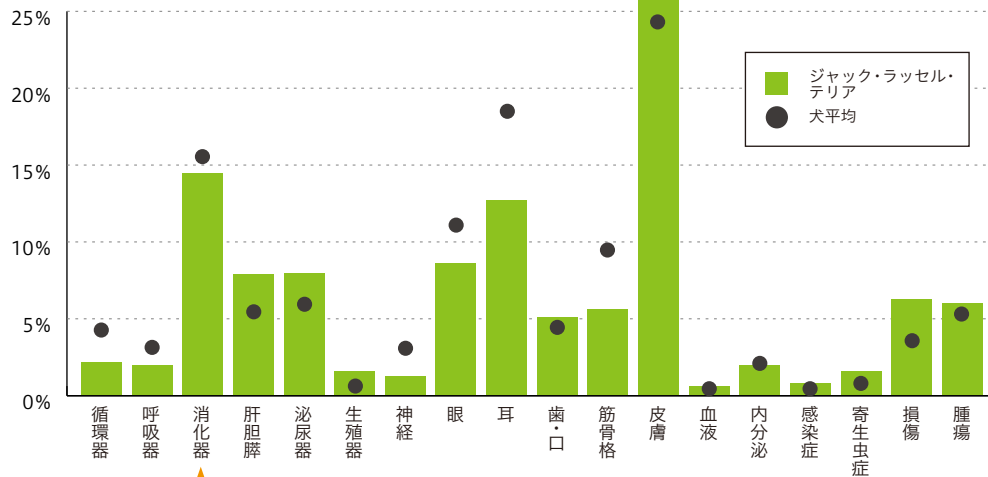
75,417 円

## 性格・特徴

勇敢な性格の持ち主で、非常に従順であり、忠誠心も高いワンちゃんです。そして非常にパワフルでタフ、かなりの運動量が必要なので、たくさん運動をさせてあげましょう。頑固で負けず嫌い、ハンター気質があるため、思い込んだら一直線という側面も。根気よくしつけをしましょう。

## 病気の傾向

ジャック・ラッセル・テリアに多い病気は、皮膚の病気、消化器の病気、耳の病気の順。皮膚の病気を防ぐためにも、こまめにブラッシングを行い、遊んだあとは体を拭いてあげるなど、清潔を保つよう心がけましょう。



ジャック・ラッセル・テリアで特に気をつけたいのは **異物誤飲**

## 異物誤飲とは

本来、食べるべきものではない「もの」を飲み込んでしまうことです。性格的にも好奇心旺盛なジャック・ラッセル・テリア、しかも幼児期となれば何でも口に入れてしまい、そのまま飲み込んでしまう場合があるため注意が必要です。

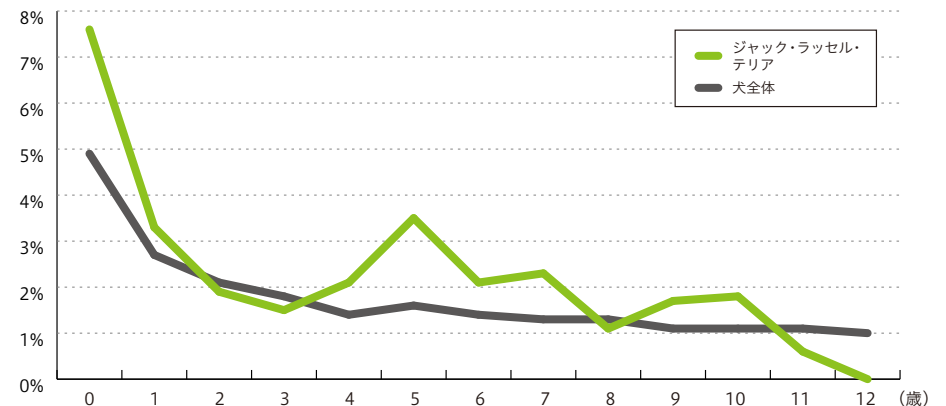
例えば、焼き鳥の串や人間のお薬、おもちゃ、タオル、紐など、人間の身近にあるものを飲み込んでしまう場合があります。最悪の場合、消化管に詰まらせて死亡してしまうこともあります。ワンちゃんの届くところに置かない、遊ぶ時は観察する、整理整頓するなど、誤飲をさせない環境作りをしましょう。

異物誤飲の  
年間平均診療費



**32,760 円** (手術あり・なし含む)

## 異物誤飲における保険金請求割合の年齢推移



※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期を迎えた0～12歳までの犬466,548頭を対象に調査したものです。(内ジャック・ラッセル・テリア：5,849頭)





# ラブラドル・レトリバー

原産国 **カナダ**

賢さ、穏やかさ、能力の高さ、性格の良さから、欧米を中心に人気が高まり、世界中に広がりました。家庭犬としてだけでなく、盲導犬、介助補助犬、麻薬探知犬など、その能力を発揮して活躍しています。

平均体重

男の子：30.5kg / 女の子：28.5kg

平均寿命

12.8 歳

年間平均診療費

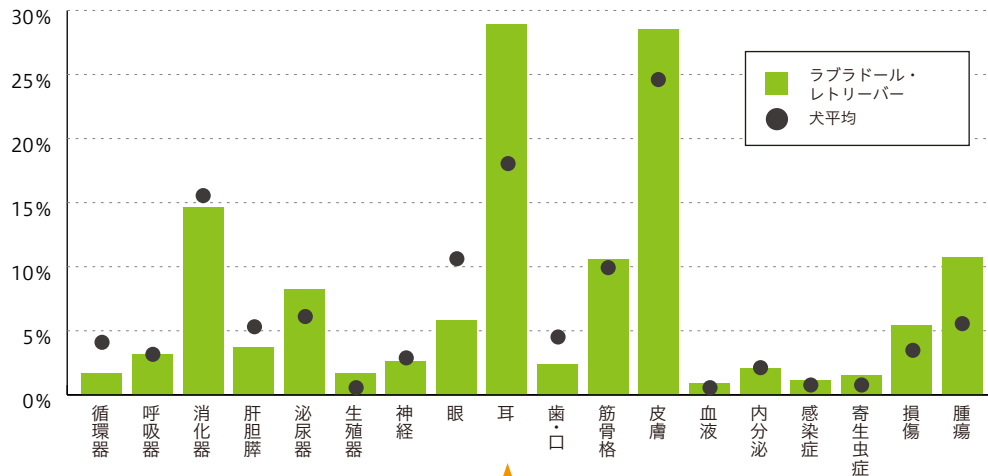
125,406 円

## 性格・特徴

穏やかで攻撃性が少なく、知性と順応力が高く、好奇心も旺盛で、陽気なワンちゃんです。ほかの動物や小さな子供にも温和に接することができます。家族にも愛情深く、社交的です。体を動かすことが大好きなので、日常から十分なお散歩が大切です。

## 病気の傾向

ラブラドル・レトリバーに多い病気は、**皮膚の病気**、**耳の病気**、**消化器**の病気の順。食欲と好奇心から、おもちゃを飲み込んでしまうなど、誤飲にも注意が必要です。



ラブラドル・レトリバーで特に気をつけたい病気は **耳の病気 (外耳炎)**

## 外耳炎とは

ラブラドル・レトリバーは耳が垂れているため耳の中の通気性が悪く、蒸れやすい状態です。蒸れた耳の中は細菌にとっては最高の環境。これらの細菌が原因となり、外耳炎を起こしてしまいます。慢性化すると再発を繰り返すので厄介な病気です。

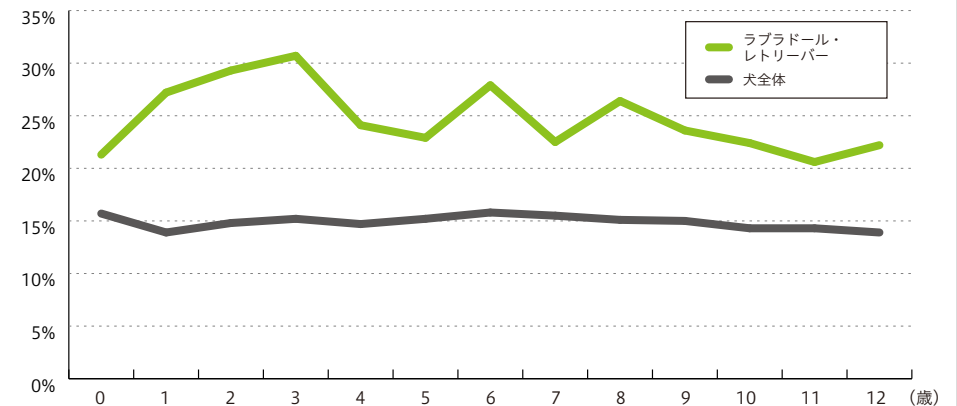
耳垢がたまりやすくなったり、耳が臭い、耳をかく、床に耳をこすりつける、などは外耳炎のサインです。外耳炎は早期の治療が大切ですので、サインを見逃さないようにしましょう。症状が改善されるまでは点耳薬などで治療をしますが、重度の場合は手術が必要となったり、中耳炎に悪化するケースも。外耳炎には清潔を保つことが重要です。日頃から定期的に耳のケアを行いましょう。

外耳炎の  
年間平均診療費



**18,858 円** (手術あり・なし含む)

## 外耳炎における保険金請求割合の年齢推移



※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期を迎えた0～12歳までの犬466,548頭を対象に調査したものです。(内ラブラドル・レトリバー：6,776頭)



# ビーグル

原産国 イギリス

スヌーピーのモデルとして有名なビーグルは、うさぎ狩りの狩猟犬で、「嗅覚ハウンド」と呼ばれるほど優れた嗅覚の持ち主。その特徴を活かし、「検疫探知犬」として、空港などでも活躍しています。

平均体重

男の子：8.0kg / 女の子：7.0kg

平均寿命

13.3 歳

年間平均診療費

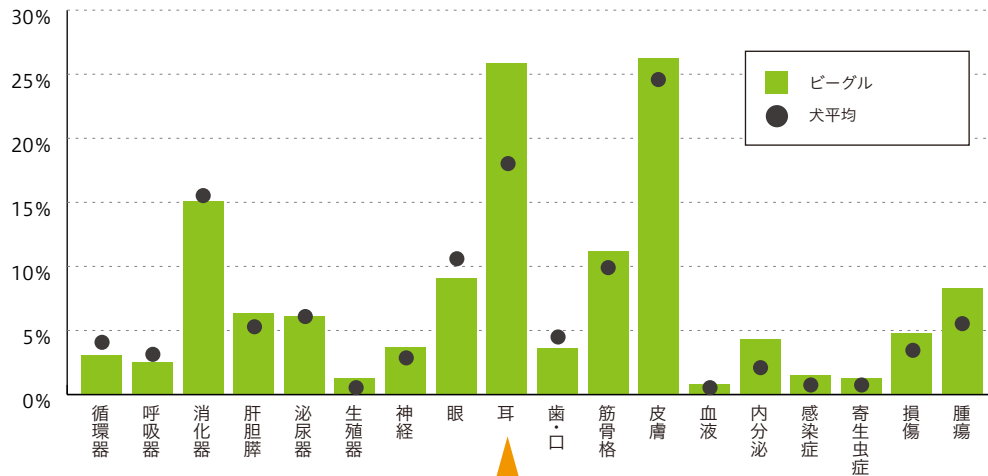
117,629 円

## 性格・特徴

活発でやんちゃ、遊び好き、愛情深く協調性もあるので子供とも仲良くできるワンちゃんです。社会的ですがさみしがり屋なので長時間の留守番は苦手です。狩猟犬であったため体格の割に声のボリュームが非常に大きいので、しつけはきちんと行いましょう。

## 病気の傾向

ビーグルに多い病気は、皮膚の病気、耳の病気、消化器の病気の順。また、嗅覚が優れている分、食べ物への執着心が強いです。食欲旺盛で太りやすいため、肥満にならないよう毎日のお散歩は欠かせず行いましょう。



ビーグルで特に気をつけたい病気は **耳の病気 (外耳炎)**

## 外耳炎とは

ビーグルは耳が垂れているため耳の中の通気性が悪く、蒸れやすい状態です。蒸れた耳の中は細菌にとっては最高の環境。これらの細菌が原因となり、外耳炎を起してしまいます。慢性化すると再発を繰り返すので厄介な病気です。

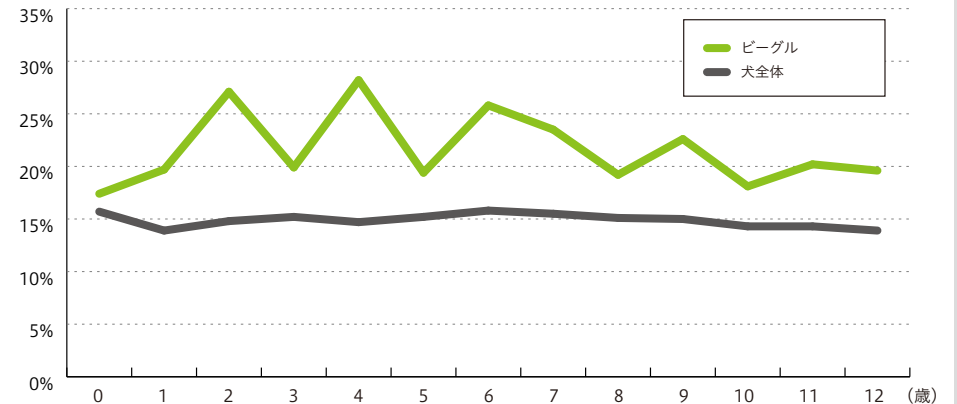
耳垢がたまりやすくなったり、耳が臭い、耳をかく、床に耳をこすりつける、などは外耳炎のサインです。外耳炎は早期の治療が大切ですので、サインを見逃さないようにしましょう。症状が改善されるまでは点耳薬などで治療をしますが、重度の場合は手術が必要となったり、中耳炎に悪化するケースも。外耳炎には清潔を保つことが重要です。日頃から定期的に耳のケアを行いましょう。

外耳炎の  
年間平均診療費



**18,858 円** (手術あり・なし含む)

## 外耳炎における保険金請求割合の年齢推移



※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期を迎えた0～12歳までの犬466,548頭を対象に調査したものです。(内ビーグル：4,017頭)



# 猫



起源 エジプト

古代のヒョウのような大きな動物が起源といわれています。4000～5000年前にエジプトから住み良い環境を求め、中東から中国へ伝わり、日本へは6世紀頃に渡ってきたと考えられています。

平均寿命 14.2 歳

年間平均診療費 63,954 円

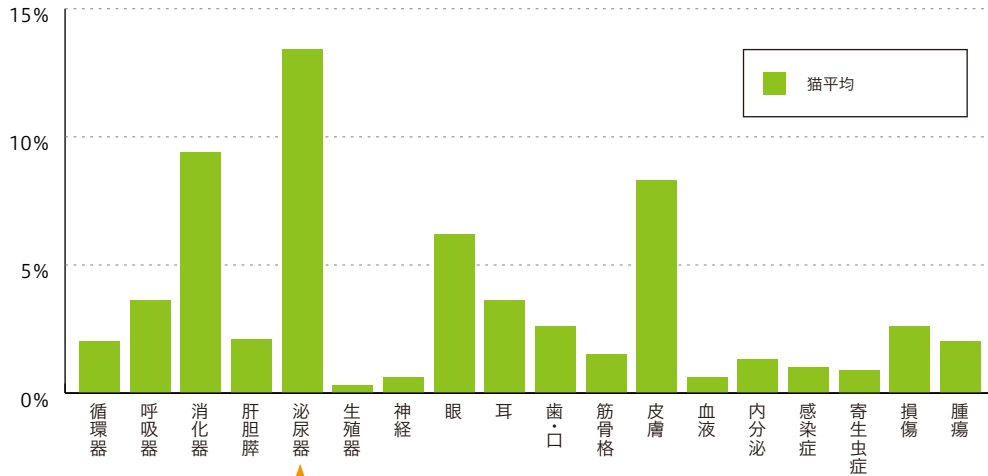


## 性格・特徴

猫は、毛色によって性格が違ふといわれています。体にあるメラニンの量が、ネコの毛色と性格に関係しているという説があり、メラニン量が多い(毛色が濃い)と行動的に、少ない(毛色が薄い)と警戒心が強くなる傾向があるのだとか。愛情のかけ方により、猫の性格は変わってくることもありますので、たくさん愛情を注いであげましょう。

## 病気の傾向

猫に多い病気は、**泌尿器**の病気、**消化器**の病気、**皮膚**の病気の順。また、猫は病気になっていてもそれを隠す習性があるため、異常に気づいたときには症状が進行していることがあります。早期発見のため、日頃からスキンシップを兼ねたボディチェックを習慣にしましょう。



猫で特に気をつけたい病気は **泌尿器の病気**

## 泌尿器の病気とは

膀胱炎、尿結石、腎不全などがあります。

泌尿器の病気の年間平均診療費 **¥ 76,590 円** (手術あり・なし含む)

## 泌尿器の病気になりやすい理由

猫の起源は砂漠地帯。水の少ない環境であまり水を飲まず、濃い尿を出す体の仕組みになっています。濃い尿を出すには腎臓に負担もかかるため、尿石ができやすくなってしまいます。冬など寒い時期は、ただでさえ少ない飲水量がさらに減りがちになるため、泌尿器の病気を発症しやすくなります。

## 予防のために気をつけたいこと

- 新鮮なお水を飲みたいときに飲める環境にしましょう。
- トイレは常に清潔にし、おしっこを我慢させないようにしましょう。
- なかなかお水を飲んでくれないときは・・・  
お水を少し温めてみる、ご飯をぬるま湯でふやかして水分補給させる、など工夫をしてみましょう。

## こんな症状が見られたら泌尿器の病気かも！？

- おしっこの色やにおい、量や回数の増減が気になるようになった
- トイレへ頻繁に行く
- おしっこするとき痛がって鳴く

※記載のデータは2014年4月1日から2015年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約で始期を迎えた0～12歳までの猫65,305頭を対象に調査したものです。